

取り組むべき視点⑤

**観光消費の地域内循環**

年間 800 万人もの観光客が訪れていることから、観光消費と地域経済とを一層関連付ける取組が必要である。

◆現在の取組例（小樽市としての取組例）

取組	内容
小樽市観光客動態調査	小樽市を訪れる観光客の動態や小樽に対する意向、消費金額の変化などを調査
小樽市観光基礎調査 (詳細は資料4)	観光消費が地域に与える効果を把握するため、小樽市産業連関表を作成し、観光が地域にもたらす経済効果を分析

◆振興会議におけるこれまでの意見から

- 小樽は観光客で賑わっており、水産加工業や銭函の製造業、お土産屋など元気な企業がたくさんあるのになぜ活性化に結びついていかないのか、非常に疑問を感じる。
- 観光客がたくさんいる割には疲弊していると感じており、そのギャップがどこにあるのか、なかなか正解が見えない。
- 観光客のもたらす収入が小樽市内で回っていない。地域循環の取組を行わなければ、この小樽の問題を解決できないのではないか。



① 地域内循環

- 外国人観光客の一番の不満は Wi-Fi 環境であり、市内どこにいても Wi-Fi がつながり、全ての情報が得られるであとか、今までと違うことをやらない限りは前に進んでいかないとと思う。



② 外国人観光客への対応

◆新型コロナウイルス感染症による影響から

- インバウンドの激減を含めた観光客の減少による観光消費の蒸発したことから、観光消費の拡幅に向け、新型コロナ収束後を見据えた準備や対応が必要



③ アフターコロナ

**【取組の方向性】**

- ・観光消費による地域経済への影響、効果を把握するために産業連関分析を進める。
- ・コロナ収束後を見据え、外国人観光客を中心とした受入環境の整備。